

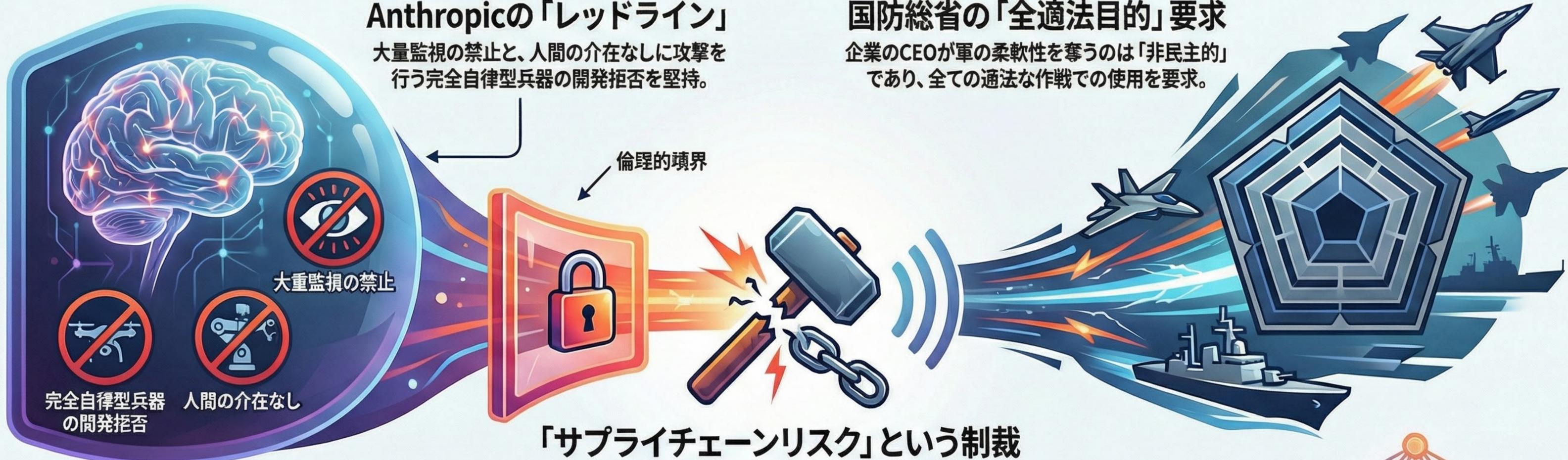
国防総省 vs. Anthropic : AI倫理と国家安全保障の衝突

Anthropicの「レッドライン」

大量監視の禁止と、人間の介在なしに攻撃を行う完全自律型兵器の開発拒否を堅持。

国防総省の「全適法目的」要求

企業のCEOが軍の柔軟性を奪うのは「非民主的」であり、全ての適法な作戦での使用を要求。



「サプライチェーンリスク」という制裁

本来敵対国に適用される「核選択」とも言える制裁で、全政府契約からの排除を意味する。



2億ドルの直接的損失と連鎖反応

軍事契約解除に加え、AWSやGoogle等を通じた民間取引にも波及し、市場を混乱させる。

2026年時点での主要AIモデルの軍事利用に対する姿勢と比較。

評価項目	Claude 4.6 (Anthropic)	GPT-5.2 (OpenAI)	Gemini 3 Pro (Google)
推論エンジン	適応型推論 (Adaptive Thinking)	汎用クリエイティブ	マルチモーダル最適化
軍事利用への姿勢	✗ 厳格な制限あり	✓ 全適法目的を容認	✓ 全適法目的を容認
国防総省の評価	⚠ 技術は最高だが「非協力」	✓ 協力的パートナー	



Claude 4.6の「不可代替性」

「適応型思考」や最大な文脈処理能力において、競合他社を圧倒する戦術的優位性を持つ。